

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人富山大学

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目指している。第3期中期目標期間においては、カリキュラム改革や教育方法の改善、強みを持つ先端分野の研究強化やイノベーション創出を支える教育研究組織の整備・充実に努め、全国的な教育研究拠点に向けて機能強化を行うとともに、「地（知）の拠点」を目指し、地域活性化の中核的拠点として、マネジメント体制を確立することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、医薬系と理工系の融合を目的として、「医薬理工学環」を、人社芸術系と理工系との融合を目的として「持続可能社会創成学環」を令和4年度に設置することとするなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 重点研究分野（脳科学分野、未病分野、材料分野）推進のため、「研究推進機構アイドリング脳科学研究センター」、「未病研究センター」及び既存組織である「都市デザイン学部附属先端材料研究センター」を発展的に改組した「先進アルミニウム国際研究センター」を新設しており、未病研究センターでは、東洋医学の概念である「未病」をALL富山大学で多分野の叡智を集め解き明かし、健康社会に向けた超早期疾患予測・予防の実現を目的として活動しており、JSTムーンショット型研究開発事業目標2に参画している。（ユニット「本学の強み・特色ある研究の推進」に関する取組）
- 富山大学におけるダイバーシティ（全ての大学構成員が活躍できる教育・研究・職場環境作り）を推進し、また社会的に配慮の必要性が高まっている性的指向・性自認（SOGI）についても対応するため「富山大学ダイバーシティ推進宣言」、「ダイバーシティ推進のための基本方針」及び「富山大学多様な性的指向・性自認（SOGI）に関する基本指針」を策定し、学内外に公表している。（ユニット「男女共同参画の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 毒劇物又は向精神薬等の不適切な管理

「麻薬及び向精神薬取締法」の規制対象である向精神薬について、工学部及び医学部研究棟において使用場所及び保管庫としての登録がされていないにも関わらず使用・保管を行うなど管理が不適切であった。

再発防止に向けた組織的な取組を実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ カリキュラムの体系化及び改善に関する取組

「授業評価アンケート」、「卒業時アンケート」、「DP（ディプロマ・ポリシー）達成度調査」集計結果を基に、カリキュラム点検を実施、ステークホルダー（学生、企業等）の意見聴取を実施し、カリキュラム改善に反映させている。また、社会のニーズに対応した「新設科目開設の要望」、「科目の履修順序改変の要望」へ対応し、カリキュラムの改善を図っているなど、PDCAサイクルに沿った内部質保証が実施されている。

○ 医工連携体制による新型コロナウイルス感染症中和抗体取得に関する研究

新型コロナウイルス感染症に連携して取り組むため、医学部、工学部、附属病院及び富山県衛生研究所による医工連携体制を構築し、大学の独自技術である高力価中和抗体の作出技術を基に、新型コロナウイルス感染症中和抗体取得に関する研究を行い、変異株感染を防御できる中和抗体の取得や抗原迅速検査キットの開発等の成果を得ている。

附属病院関係

（診療面）

○ 設備整備計画に関する取組

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、工事の実施に大きな影響があった中で、新型コロナウイルス感染症患者を受入れながらも新厨房棟の整備、手術室2室増室及び外来化学療法センターの増床を計画どおり進めるとともに、増室した手術室を効率的に運用したことで、手術件数の増加が図られている。

（運営面）

○ 経営改善に関する取組

経営改善ワーキングタスクフォースにおいて、各種取組について検討・実施した結果、「外来患者の受付可能時間を予約の1時間前からとする運用」や「新型コロナウイルス感染症対策のためのテレビ電話による患者面会システムの導入」、「手術器材の見直しによるコスト削減」等を実施するなど経営改善に向けて取り組んでいる。